

会議録

会議の名称	第3回 西東京市産業振興マスタープラン策定委員会
開催日時	平成22年1月27日 16時00分から18時00分まで
開催場所	保谷庁舎別棟会議室C
出席者	委員：板橋、奥田、水谷、櫻井、村田、海老沢、本橋、斉藤 事務局：西東京市生活環境部産業振興課 大和田、森野、杉野、宮坂 コンサルタント：2名
議題	(1) 第2回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会会議録について (2) JA・商工会等関係者ヒアリング概要 (3) 産業各分野の方向性
会議資料の名称	資料1 JA・商工会等関係者ヒアリング概要 資料2 西東京市産業振興マスタープラン 方向性の検討 第2回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会会議録
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

発言内容

(1) 第2回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会会議録について

議事録（案）の内容確認の際に、委員の方々からいただいたご指摘に基づいて行った修正（5点）について、事務局より説明。修正内容をご確認いただいた。

○委員：

1月に商業関係者にヒアリングを行ったこと自体は賛成だが、商業者にヒアリングを行うということについて、委員会で決議されていない。第2回委員会の議事録をみても、商業者ヒアリングをすることを決定した事実はない。

また、案内文書の時点では「事業者ヒアリング」となっていたが、本日の資料では、「商工会・JA関係者ヒアリング録」に変わっている。つまり、商工会の関係者などに対し、商工会事務局ヒアリングを補完するような形で行われたものであり、組織の関係者として発言であり、「商業者」としての立場でお答えになったわけではない。

そのため、商業者ヒアリングを行う相手は誰がよいのか候補をあげ、改めて委員会で決めて、再度行うべきである。

○委員：

前回の委員会の際に、JAや商工会事務局だけでなく、事業者の意見もうかがいたいので

で、候補がある方は推薦してほしいと言われたと思ったいた。そのため、私がメンバーを推薦し、今回のヒアリングを行ったという経緯がある。

○委員：

第1回の委員会の席で商業者・農業者などへのヒアリングも提案されていたが、その時点のヒアリング項目が非常に大まかなものだったので、何をうかがいたのかをもう少しつめてから、目的をもってヒアリングすべきと私から指摘させていただいた。商業者等にヒアリングをするということ自体は、第1回の席で示されていたものであり、突然行われたものではないと理解している。

○事務局：

今年度中にヒアリングの機会をもつことは、時間的に難しい。そのため、素案をまとめた後、次年度に、素案をもって新たなヒアリングを行わせていただきたい。ヒアリング対象については、大学等も含めて、改めてご提案いただきたい。

(2) JA・商工会等関係者ヒアリングについて

○委員：

ヒアリングにすべて出席した。そのときの意見などを踏まえて、本日の各分野の方向性をみると、お先真っ暗という印象がある。方向性の中に、農地やお店を減らさないための手当てが明記されていない計画にどんな意味があるというのか？

買い物できる、買い物に困らない商店街があること、農地があることこそが重要なのでは？

(3) 産業各分野の方向性について

産業振興された後の姿として、こういったものを目指すのか？

○委員：

産業振興といった場合、出荷額や販売額が増加した、働く人が増えた、事業所数が…といった数値で計られるのが一般的だが、大規模店舗が進出してきて、市単位でみた場合の売上高はあがったけど、地元の個店が減少したという姿を「産業振興した」とみるのだろうか？

○委員：

売り上げを増やす、店を増やすというよりも、「落ちていくのを、減少をくいとめる」というのが現実論ではないか？

○委員：

産業を振興して、生活を支えること。安心して幸せに暮らすことができるという状況が生まれることが産業振興なのではないか？

○委員：

後期基本計画を改めて勉強したら、「水や緑を大切に」「もっと交通を便利に」という市民要望があがっていた。そういった要望も踏まえて検討してはどうか？

○委員：
そもそも、ベッドタウンでいいのか？それとも、働く人がいるところなのか？

○委員：
産業振興で何を指すのかを明らかにし、目標値を定量的に示すことが必要だ。

○委員：
目標は1つでなく、分野別に示すべき。定量的な目標も必要。

○委員：
産業が元気になれば、雇用が生まれて生活が豊かになり、市民が元気になれる。

○委員：
事業者も住民も市民。みんなのため、みんなの幸せのための産業の振興を。

○委員：
将来像を記述する場合、「安心してがんばれる」なんてふわふわした表現はやめるべき。

○委員：
地元の購買力を着実に取り込むとあるが、地元ではなく、隣接市なども含めた「地域」なのでは？

産業振興マスタープランの枠組み

○委員：
強み・弱みや取り組みを整理した一枚目と方向性の間のつながりがみえない。

○委員：
施策にいたるようなところまで細かくまとめすぎ。もっとふわっとしたまとめでいいのでは？

○委員：
5年後に各分野をどのようなものにするのか？

○委員：
農業の目標は、生産と農地の減少のくい止めしかない。

○委員：
整理は分野別にするのか？生活を豊かにする、緑を豊かにするなどの役割別なのは？

○委員：

産業振興なので、分野別でよいのでは？

○委員：

ものづくり（ハードだけでなく、コンテンツ産業などのソフトも含む）、農業（農地と事業）、商業・サービス（店・商店街と事業）プラス観光という、大きく3分野で整理すればいいのでは？

○コンサル：

農地と事業、店・商店街と事業という分けて分類したほうがよいか？

○委員：

そこはこだわらない。3分野でよいと思う。

○委員：

3分野をバラバラにとらえるのではなく、相互のかかわりも考えて、立体的にとらえるべき。

○委員：

農業は減少のくい止め、ものづくりも将来像を考えられるが、商業は問題。

○委員：

買い物利便性は交通利便性とも深くかかわる。移動・交通も含めて考える必要がある。

○委員：

まち歩きにしても、歩ける環境になっていない。

各分野にかかわる提案

商業

○委員：

商店街すべてを残そうとするのは無理がある。「5駅」と「残す商店街・残る商店街」といった、市内商店街の適正配置を考え、示すべき。

○委員：

市がそれをいえるのか？いうべきなのか？

○委員：

再開発などに翻弄されるなど、個店ではどうにもならない部分というのもある。駅と残す商店街でもって今後のあり方を考えるというのは、夢物語ではないか？

○委員：

大規模店舗と商店街の共存を図るということはできないのだろうか？

○委員：
商店街は地域コミュニティの担い手と言われても、やりきれない。

○委員：
商業振興は、個別の経営体について考えるのか？

○委員：
商店街で増加している医療系も含めた振興を考えるべき。

○委員：
アジア諸国では、外で手軽に飲食できる。お弁当を買ってきて家で食べるより、外でおいしいものを食べたいという高齢者も考え、台所の外化も計画にいれてもらいたい。

観光

○委員：
まち歩き観光を振興するなら、案内人の育成も必要。

検討にあたっての指摘・要望

○委員：
前回の策定委員会で、ヒアリングをすべきとなった東大農場へのヒアリングはどうなっているのか？

○事務局：
ほかのヒアリング対象とともに、来年度行いたいと考えている。

○委員：
検討する前提として、まず東大農場の話を聴くべきだと第一回の委員会から申し上げているが、実施するための努力をしているのか？

○委員長：
第1回委員会からずっと「すべき」という意見が出ている。実施の方向で動いていただきたい。

○委員：
食育推進計画などが引用されているが、産業振興にかかわる関連計画の説明はないのか？

○委員：
商店街活性化法について知りたい。

次回日程調整

○事務局：
次回第4回は平成22年2月19日（金曜日）、第5回目は3月9日（火曜日）いずれも午後4

時から開催する。

○委員：
了承。